

「日々の理科」(第 2565 号) 2021, -7, 22

「羽化中のセミ・・・を持参した子」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「羽化」という現象は、昆虫の変態の中でも、最も劇的な変化の一瞬だ。特に、サナギから成虫になるチョウやテントウムシ、それに幼虫から直接成虫になるトンボやセミも、羽化こそが昆虫の一生で最も素晴らしい一瞬と言える。しかしその一瞬の目撃者になることは容易ではない。



これはテントウムシの羽化の一瞬だ。子どもたちは、みすばらしいサナギから、トパーズのような美しい成虫が出て来る様子の一部始終を、数十人で取り囲んでじっと観察していた。その後まるで写真が現像されるように翅の文様が現れ、ナミテントウとわかった。



アゲハの羽化は「サナギホルダー」をつくっておくと、観察成功率が上昇する。厚紙にサナギを固定しておくのだ。それを黒板や壁に「掲示」しておくと、羽化の一瞬に立ちあう可能性が高くなる。



終業式の日、ある男子の筆箱の中に、何か不思議なものが入っているのに気付いた。消しゴムにしてはあまりにも凝った意匠である。



これは何とセミの幼虫だった。しかも「羽化している途中」の幼虫だ。残念ながら息絶えていた。羽化の様子を見ていたら、そのまま動かなくなったという。



セミの成虫や抜け殻は珍しくない。幼虫も何度か見たことがある。しかし「羽化中のセミの幼虫」には初めて出会った。周囲の子どもたちも歓声をあげていた。